

**主 題：ヨード：神のことばと苦しみの中での正しい応答2**  
**聖書箇所：詩篇 119篇74-80節**

神を信じる者たちに対する神の心遣い、その深い愛を表わすいくつかの表現の中で、私の最も好きな表現が出エジプト記19章に記されています。そこで、神はイスラエルの民をご自身のもとに連れ出して来たことを、このようなことばをもって言い表わしているのです。19：4「あなたがたは、わたしがエジプトにしたこと、また、あなたがたをわしの翼に載せ、わたしのもとに連れて来たことを見た。」この「わしの翼に載せ」という表現は、子わしが初めて空を飛ぶことを学んでいくときに、わしは羽をばたつかせて飛ぶのではなくて、羽をしっかりと広げて気流に乗って空を駆け巡ります。けれども、初めて飛行することを学ぶ子わしたちは、上手にその気流をつかむことができないので、ときに地面に真っ逆さまに落ちてしまうことがあるのです。もちろん、そのように落ちてしまうとけがをするだけでなく、ときに死んでしまうことがあることを分かっている親わしは、子わしの下にその大きな翼をしっかりと伸ばして、子わしが万が一落ちることがあっても、決して地面に衝突するのではなくて、広げている大きな柔らかい羽の上に落ちることができるよう子わしの下を飛んでいくのです。

神がここで「わしの翼に載せ」と言われたことは、まさに、このことを言い表わしています。どんな困難の中にあっても、どんな問題の中にあっても、神はご自身の民に対してこのようにしっかりと神の翼を張り巡らし、私たちが決して傷つくことがないように、決して倒れてしまうことがないように、決して致命傷を負うことがないように、私たちが心遣い、心配ってくださる方なのです。神は確かに、イスラエルの民にこのように働かれたし、また、アブラハムの肉体的な子孫であるイスラエルに対してだけでなく、霊的な子孫である私たちに対しても同じように、深い愛と心遣いをもって接してくださっているのです。私たちの神は確かに、ご自身の民に良いことを成されるいつくしみ深い方なのです。

けれども、私たちはいろんな問題にぶつかるときに、私たちはどうしても神がこのような心遣いを私たちにしてくださっていると思うことができません。それに困難を覚えます。私たちはなぜ、自分たちが苦しまなければいけないのかということをお悩みます。私たちはなぜ、神がこのような悪が私たちに襲いかかるのを良しとするのかと疑問を抱きます。私たちは自分たちが最善だと考えていることが、私たちの生涯に起こるときに初めて、神は私たちを守っていてくださるとか、私たちが心遣ってくださっているなどと考えがちなのです。だから、なぜ、神が自分たちにこんな人生の困難を苦しみを痛みを与えるのかということをお考えるときに、私たちは深い疑問を抱きます。なぜ、人間関係において、私たちの肉体的な健康面において、または、社会的地位や仕事の中にあつて、「神さま、どうしてこのような困難を与えるのですか？」と言って思い悩み苦しみます。このような苦しみは、ここにいらっしゃる皆さんすべてが経験して来たことだろうと思うし、皆さんの中には、今現在、そのような中を通っておられる方がいらっしゃるかも知れません。そして、それは私たちだけでなく、この詩篇119篇を記したこの著者の生涯の上にもまさに起こっていたことなのです。

このように人生の中の苦しみの季節にあつて、この著者は、私たちがこれから見ていく119：73-80に祈りのことばを記しました。彼はここで神に対して祈り求めているのです。その中で私たちは、このような人生のいろんな困難の中にあつて、苦しみの中にあつて、どのように正しく応答していくのかを見ていくことができます。

**☆困難の中で、神にどのように正しく応答してゆくのか？**

**A. 苦難の中で私たちが祈るべき三つのこと 73節**

1. 神がだれなのかを知る
2. 何が必要なのかを知る
3. 私たちはどのような人物になるべきかを知る

私たちはもうすでに先週、その最初のポイントを見ました。73節で、「私たちは何を祈るべきなのか」について見ました。そこで私たちは、この著者が「悟りを与えてください」と祈っているのを見ました。彼は、神が彼の内側も外側もすべてを造られた、私たちの必要も私たちの苦しみも私たちの弱さもありとあらゆることをだれよりも、何よりもよくご存じであるこの神を信頼し、その神がなぜこのような苦しみを私たちに与えようとしているのかを、しっかりと正しい形で理解していくことができるように、悟りを与えてくださいと願ったのです。神の視点で、信仰の目を開いて物事を判断することができ

るように、それを理解することができるようにと彼は祈っていたのです。なぜなら、彼が求めたのは、神の命令をしっかりと学んで、それを実践していきたくと心から願っていたからにはほかありません。彼は苦しみ中であっても神から目を離さず、神に喜ばれることを確かにしていきたいと心から願っていたゆえに、「どうぞ、このような問題の中であっても、私が正しくそれを理解し、それを消化することができるように悟りを与えてください。」と祈ったのです。

今日は、皆さんといっしょに残りの二つのポイントを見ていきます。この著者が私たちに教えてくれること、私たちはどのように正しく神に伝えていくのか、苦しみの中で、人生の様々な問題の中にあつて、どのように正しく神に伝えていくべきかを見ていきます。そのことを通して、何よりも私たちがこの著者が言っていることをしっかりと学び取り、自分たち自身が問題の中にあつて正しい応答をし、神に喜ばれ、人々に祝福をもたらす者へと変わっていくことができるように、私たちは著者のことばを注意深く学んでいきたいと思ひます。著者はこのように語ります。

### 詩篇 119 : 73-80

- :73 あなたの御手が私を造り、私を形造りました。どうか私に、悟りを与えてください。私があなたの仰せを学ぶようにしてください。
- :74 あなたを恐れる人々は、私を見て喜ぶでしょう。私が、あなたのことばを待ち望んでいるからです。
- :75 主よ。私は、あなたのさばきの正しいことと、あなたが真実をもって私を悩まされたことを知っています。
- :76 どうか、あなたのしもべへのみことばのとおり、あなたの恵みが私の慰めとなりますように。
- :77 私にあなたのあわれみを臨ませ、私を生かしてください。あなたのみおしえが私の喜びだからです。
- :78 どうか高ぶる者どもが、恥を見ますように。彼らは偽りごとをもって私を曲げたからです。しかし私は、あなたの戒めに思いを潜めます。
- :79 あなたを恐れる人々と、あなたのさとしを知る者たちが、私のところに帰りますように。
- :80 どうか、私の心が、あなたのおきてのうちに全きものとなりますように。それは、私が恥を見ることのないためです。

すでに、著者は私たちに、私たちが困難の中にあつて何を祈るべきなのかを教えてくれました。ヤコブがヤコブ書 1 : 5で「あなたがたの中に知恵の欠けた人がいるなら、その人は、だれにでも惜しげなく、とがめることなくお与えになる神に願いなさい。そうすればきっと与えられます。」と、私たちに知恵が足りないなら知恵を求めなさい、それを求めて祈りなさいと言ったように、私たちは神が与えてくださる困難、試練の中にあつて、それを正しく理解することができるように、それを受け入れることができるように神の前に悟りを求めなければいけなかったのです。

### B. 困難の中で目指すべきこと 74 節

#### 1) 困難の中を歩む自分自身が人々の模範となる

同時に、そのことを記した直後に、著者は74節で、もう一つ別の願い、祈りを加えています。彼が求めることは、彼自身がこのような困難の中にあつて何を目指すべきかということです。74節には「あなたを恐れる人々は、私を見て喜ぶでしょう。私が、あなたのことばを待ち望んでいるからです。」、私たちが使っている新改訳聖書では、これが宣言のように書かれていますが、実は、原文を見るとここには「祈り」が記されているのです。このように訳すべきだろうと私は思ひます。「あなたを恐れる人たちが私を見て喜びますように」と。彼が祈っていることは、まさに、このことです。「喜ぶでしょう」という宣言ではなく、「喜びますように」という願ひです。つまり、彼はこの苦しみの中にあつて、神を信じる人たちが彼のその応答を見て、神を喜び、神を称える者となっていくことができるようにと言っているのです。別の言い方をすれば、彼は人々の模範になることを目指していたのです。

皆さんはどうですか？私たちがいろいろな問題を抱えるときに、様々な困難に会うときに、私たちの生涯は人々の前で注目されるようなものになります。例えば、教会でも、皆さんの祈禱課題を見たときに、私たちはそこにいろいろな困難を抱えている方たちのためのとりなしの祈りの課題が載っているのを知っています。そうすると、私たちはそれを見て、彼らの生涯が神によって守られ、支えられ、良いものとなっていくように、彼らのためにとりなしの祈りをしていく訳です。そこに載っていたり、また、このようところで皆さんに話をすると、私たちはその方に注目し、その方がこれからどのように歩いていくのかを心配りながら生きていきます。

この著者が生きていた時代もこれと変わりありません。彼が様々な困難を抱え、苦しみを受けていたことを、同じように、神を信じる者たちは知っていたのです。彼らは今私たちがしているのと同じように、私たちが苦しみの中にあるのと同じように、この著者が苦しみの中でどのように神に応答して生きて行くのかに注目していたのです。「あなたを恐れる人々」ということばがありますが、それは63節にも記されているように（「私は、あなたを恐れるすべての者と、…」）、神を信頼する人たちであつて、

そのような人たちが彼を見ていたのです。そして、このように関心をもって、信仰者としての彼の生涯がどのようなものであるのかを見ていた人たちの前で、著者が願うことは「私は彼らの模範として生きていきたい」ということでした。著者が祈っていることは「神が人々に働いて、神を信じる人たちに働いて、彼らが私のことをしっかりと見て、この人生の様々な困難を通していく中で、私が神の前にどんな応答をしながら生きていくのかを見て、彼らの心が喜ぶように。」ということでした。神に対する誠実さ、神に対する忠実さ、神の前に信仰をもってしっかりと従順に歩んでいこうとする模範として、彼は自分自身を提示したかったのです。

皆さん、気付きますか？彼は困難の中であって、自分自身に目が向いていなかったのです。往々にして、私たちが様々な個人的な問題を抱えるときに、何について、だれについて考えますか？私たちが考えることは自分自身のことではありませんか？問題を抱えていて、それがどのような問題であっても、たとえば、健康の問題、社会的な地位の問題、人間関係の問題など、自分たちが考え祈ることは自分自身のことばかりです。私たちが外に出て話そうとするのは、自分のことばかりです。「ねえ、皆さん、私にこんなことがあったのです。聞いてください！聞いてください！」と、私たちはみな言います。私も例外ではありません。けれども、この著者はそのようなことはしないのです。

いろいろな困難の中で、自分のことにしか関心が向かない人は「未熟な人」です。けれども、著者は霊的に未熟な人ではなかったのです。彼が考えていたことは、その困難の中であって、自分が周りの人たちの益のためにどのようになっていくことができるかということだったのです。スティーブ・ローソン先生はこのように言います。「私たちが持つことができる働きの中で、最も大きな影響力を持つ働きとは、私たちが自分の艱難にどう応答するかである。」と。私たちが持つことができる働きの中で最も影響力の強い働きは、自分が経験する苦しみにどう応答するのかであるということでした。私たちが神を信頼し、神の約束をしっかりと信頼して、それに依存して生きていくときに、それは他の人たちに同じように生きることを促すすばらしい働きであるということでした。それこそがまさに、この74節で言わんとしていることなのです。

## 2) どうすればそうなれるのか：神の約束に信頼を置く

でも、いったいどのようにして、私たちはそのようなすばらしい信仰者になるのでしょうか？模範を示すことができるような者になってくことができるのでしょうか？他の人たちの人生に大きな影響を与えるような働きを、苦しみの中で為すことができるのでしょうか？そのために私たちは、他の人よりも優れたクリスチャンでなければいけないのでしょうか？他の人たちよりも多くの知識を持っていないといけないのでしょうか？他の人たちよりも強い人物でないといけないのでしょうか？著者はそのようなことはひと言も言いません。この著者は確かに知識があったでしょう。確かに成熟した信徒だったでしょう。でも、彼がこのような困難の中で人々の模範として生きてくことができるようになるその土台として持っていたことは、74節の後半にあるように「私が、あなたのことばを待ち望んでいるからです。」でした。彼は神の約束に信頼を置いていたのです。神のことばを信頼するゆえに、疑わず、苦しみの中にあっても希望を失うことをしなかったのです。それが彼が他の人の模範となることができた唯一の理由でした。確かに、困難はあります。確かに、私たちは落胆し、ときに絶望を経験し、私たちは神の前に嘆くことがあります。この著者も例外ではありません。これまで119篇を見てきた中で、私たちは彼の絶望を見ました。彼がどれほど落胆の中にあっただのかも見て来ました。彼の苦しみは明らかに告白されていました。けれども彼は、その都度どこに戻っていったか？皆さん、覚えていますか？彼は神のみことばに戻っているのです。彼は神のみことばに立つことを忘れなかったのです。彼はその土台にしっかりと立って神の約束に信頼を置いて「神が言うことには間違いがないから、神のやることは絶対に正しいから、私は主に信頼を置いて主の仰せに従ってしっかりと生きていくのです。」と言い続けたのです。

どんな困難な状況の中にあっても彼が望んでいたことは、彼の人生が神の約束が確かであるということの証明となることだったのです。皆さんはそのような生き方をしていますか？先ほども話したように、私たちは自分の苦しみを見て、自分の苦しみに目がいて自分のことだけを考える傾向があります。けれども、著者はそうではなかったのです。確かに、彼は苦しいので「解放してください！」と何度も祈るのですが、その中であって彼がここで願い求めていることは、「苦しいけれど、その中でどのように生きるのかが周りの人たちの益となるように、彼らの成長を励ますように、神さまどうぞ、そのように働いてください。」と願い求めているのです。神はその祈りに答えてくださると思いますか？神は間違いなく答えています。なぜなら、私たちは今、このみことばを見て、著者を見て私たちは喜んでいからです。何千年も経った今も、この詩篇の著者は私たちに証し続けるのです。「たとえ、どれ程大きな苦しみがあったとしても、そこに困難があり痛みがあり嘆きがあったとしても、私はその中で神にど

のように忠実に信頼をもって忍耐をもって生きていくのかということを通して、私の生涯を見る信徒たちが益々主を喜び、益々成長していくことができるように私はなっけてゆきたい。」と彼はそのように祈り、神はそれに報いてくださったのです。

たとえ皆さんが「自分は未熟だから、」と言ったとしても、皆さんはこのような生涯を送ることができます。信仰を持ったばかりの皆さんであったとしても、信仰を持って何十年もたっている皆さんであったとしても、皆さんがその信仰の成熟度のどの過程にいたとしても、皆さんは一つの条件さえしっかり守っていれば、人々の模範として、苦しみの中で人々に益をもたらす者として用いられるのです。その条件は何でしたか？神のみことばに確かな確信をもって信頼し、主を待ち望むことです。希望を抱き続けることです。皆さん、これは信仰が成熟した人がすることではないのです。だれでもできるのです。だれもがしなければいけないことなのです。もし、神が完全な主権者であり、神が深い知恵を持ち、私たちの理解をはるかに越えるすばらしい愛をもって私たちに接して下さっていることを信じているなら、皆さんはこの著者と同じように、皆さんが抱える様々な問題に対応することができます。

信仰者の歴史を見たときに、これまでも多くの信仰の先輩たちが、このように大きな試練を困難を苦しみを、忍耐をもって主に忠実に乗り越えて来ました。彼らの思うように事が進まなかったとしても、起こっていることに納得することができなかつたとしても、たとえ、その苦しみや悲しみが現実的で重たいものであったとしても、彼らは主の前に、いや、主を信じて生きる人たちすべての前で、神が私たちに成して下さることは信頼を置くことでしかない、そのように証し続けて来たのです。ヨセフやダビデやダニエルやパウロや、それ以外の多くの信仰の勇者たちがそのことを私たちにしっかりと示してくれています。私たちがより神がどのような方であるのかをしっかりと知っていくことによって、私たちは神に信頼を置いて、どのような困難な状況の中でも、他の人々の模範として生きることができるようになるのです。

どうですか？皆さんは、自分が苦しみを抱えたときに、このような願いをもって主の前に祈りましたか？これが、皆さんが困難の中にあつて目指していたことですか？どうですか？何度も繰り返します。自分もそうだから。私たちは問題を抱えたときに、自分の問題を一生懸命考えて、自分のことばかり思い悩みます。「何とかしてください」ということばかり考えます。確かに、苦しみから解放されたいと思うことは必要でしょうし、それが間違っている訳ではありません。でも、本来私たちが目指しておかなければいけないところはその苦しみの中にあつて私たちがどのように神の前に応えていくのかということです。人々の前にどのように主を信頼する姿を現わしていくのが優先されていないといけません。それが私たちが目指すべき応答です。

著者は祈りました。「主よ、どうぞ私に悟りを与えてください。あなたが為そうとしていることを分けることができるように助けてください。あなたは私の必要も私の弱さも限界もすべてご存じで、その上で、私にこれらの試練を与えて下さっているから、どうぞ、あなたが為さることが分かるように知恵を与えてください。」と彼は最初にそのように祈りました。そして、彼が次に「その中で私が目指していくことは、人々の模範として信仰者の姿を現わしていくことです。だから、どうぞそれをさせてください。私はそれを目指すのです。」と言いました。

### C. 人生の困難にどのように立ち向かうのか？ 75-80節

彼はそのことを75-80節の中で四つの事柄を通して教えてくれます。確かに、神に喜ばれるような正しい応答をしていこうと思うことは必要なことです。その思いを持っていないといけません、具体的にそこで何が求められているのか、要求されているのかを分かっているといないと正しい応答はできません。著者はそれを教えてくれるのです。

#### 1. 正しい質問をする 75節

##### 1) 「なぜですか？」

神の与えて下さる試練に正しく応えていくためには、正しい質問をしないとけないということなのです。皆さんはこのように思いませんか？私たちが受ける、経験する様々な困難や苦しみが、なぜ、私たちの上に起こるのかということを理解することができさえすれば、私たちはしっかりと歩んでいくことができます。だから、私たちが質問することは「なぜですか？」です。なぜ、神がこれを与えるのかということがはっきりと分かれば、そして、それを受け入れることができれば、納得することができれば、私たちは「ああ、そうなのだ！」と言って、忍耐をしなければいけないし、しっかりと信仰を働かせて歩んでいかなければいけないと考えるのです。そう思うのは多分、私だけではないと思います。

でも、今言っていることを別の言い方をすると、もし、私たちが神がなぜ苦しみを与えられるのかを理解できなければ、もしくは、それに同意することができなければ、私たちは神の前につぶやき不平を

述べ、神の良さを疑い、ときに、神に怒りを持つのです。「なぜ？」という疑問に正しいふさわしい回答が見つければ「ああ、そうですね。」と言うのです。「ああ、罪があるから、神はその罪を責めておられるのだ。では、しっかりと生きなければいけない、忍耐をもって我慢していこう。」と思います。でも、多くのときに私たちが通る様々な困難、試練は、それが病であっても人間関係であっても、何であっても、なぜ、それがそこにあるのかが見えないことがたくさんありませんか？自然災害、様々な事故、それが人災であろうと天災であろうと、私たちはそれを見て「なぜ？」と言いますが、それに対する回答を得ることはできません。だから、私たちは多くのときに神の前につぶやき不平を述べ、ときに神に対する信頼を失い、怒りをもって神に接するのです。私たちが納得できないときに、なぜ、こんな苦しみを与えられるのかを理解できないとき、受け入れることができないときに、私たちはそれらの苦しい事柄が、単に偶然の事故であるとか、神が不正であるとか、正しくない方であるとか、もしくは、神がよそ見をしていたと言って、そのような理由を付けて問題に向き合おうとすることがたくさんあるのです。私たちは「なぜ問題が起こるのか？」ということへの正しい回答、つまり、自分たちの納得のいく回答が得られないときに、落ち込み、苛立ち、ときに怒りを覚えます。

### ◎神の良さ

けれども、著者はそうではなかったのです。もうすでに見て来たように、この著者は神の良さをよく理解していました。68節には「あなたはいつくしみ深くあられ、いつくしみを施されます。…」と書かれています。原文では「神は良い方で良いことを為します。」と記されています。また、71節には「苦しみに会ったことは、私にとってしあわせでした。私はそれであなたのおきてを学びました。」とあり、良かったのですと彼は言います。彼はよくそのことを理解していました。そして、ここで彼はそのことをさらに明確に告白するのです。しかも、非常に個人的な形でしています。「主よ。私は、……知っています。」と言います。個人的に、自分が苦難の試練の中を歩いていくその中で「私は良く知っている」と言うのです。何を知っているのか？二つのことが記されています。

#### a) 神は完全に正しい方

ここで言っていることは、神があらゆる事柄に対して、それを正しく判断し、それを遂行されているということです。神はその主権的な選択によって、ありとあらゆることを完全な義をもって成し遂げておられるということを知っていると言うのです。つまり、彼は神の為さるありとあらゆることにおいて、神は完全に正しい方であるということを知っているのです。たとえ、彼がどんなところを歩いていようと、どんなことが彼の上で起こっていても、彼は人々の前でしっかりと宣言するのです。「私は神が何を為さっても、自分の人生に何を送られたとしても、神が正しいことを為さっているということをよく分かっている。」と。

#### b) 真実のうちに私に必要な苦しみを与えられる方

そして、彼はさらに加えます。さばきの正しいことを知っているだけでなく、「あなたが真実をもって私を悩まされたことを知って」といいます。これは直訳すると「私は真実のうちに、もしくは、誠実さのうちに、あなたが私を苦しめることを知っています。」となります。彼は、単に、神が為さる行為が正しい義なるものであるだけでなく、そこには神の完全な良さが現わされていると言うのです。誠実さのうちに、真実のうちに、あなたは私に必要な苦しみを与えておられると。このことばは、旧約聖書版のローマ人への手紙8章28節です（ローマ8：28「神を愛する人々、すなわち、神のご計画に従って召された人々のためには、神がすべてのことを働かせて益としてくださることを、私たちは知っています。」）。神が為さるあらゆることを働かせて、神は私たちの益となることをしてくださっているのです。彼が言っているのはまさにそのことです。あなたが為さることは全部正しい、そして、あなたは真実のうちに私に必要な苦しみを私に与えてくださることを知っていると言うのです。

#### 2) だれがこれをするのか

皆さん、神はその主権的なご決断によって、深い知恵と完全な愛をもって、私たちに必要な苦しみをとお与えになり、神がもっておられる目的を達成しようとしておられるのです。皆さん、ここを始めるに当たって、私たちは正しい質問をしなければいけないと言いました。私たちがする質問は「なぜ？」でした。「なぜ、こんなことが起こるのですか？」でした。けれども、私たちが本来すべき正しい質問は「だれ？」、「だれがこれをするのか？」ということです。もし、だれがこれを与えるのかを分かっていたら「なぜ？」は問題ではないのです。そんなことはありませんか？私たちは「なぜ、こんなことが起こるのですか？」ということをおさんざん聞きますが、もし、それを与えてくださる方が、私たちに愛し、私たちに救い、私たちに約束を与え、私たちに祝福しようと心から願い、まさにそれを実践されている神であることを知っていたら、「なぜ？」が分からなくても信頼することができませんか？

皆さん、私たちが様々な問題を抱えるときに、なぜそれが起こったのかという回答を、神の目線で得たことはありますか？「神さま、どうしてこんなことを為さるのですか？」と我々はさんざん聞きますが、その回答を得られることの方がはるかに少ないと思いませんか？私たちはずっと間違っただけの質問をして来ているのです。「なぜ」が問題ではないのです。

「なぜ」と聞いてはいけないというわけではありません。聞くことはきっと必要でしょう。そこに罪があるかもしれないし、何か理由があるならばそれを正さなければいけない何かがあるはずですが、それならそれをしっかりとやらなければいけないので、私たちは苦しみに会うときに「なぜ？」と質問をすることは悪いことではありません。誤解しないでください。むしろ、それは自然の応答です。「どうして？どうしてこんなことが起こった？」と思います。でも「なぜ？」にこだわらないでください。こだわらなければいけないこと、私たちがしっかりと回答をもっていなければいけないことは、「なぜ、これが起こったのか？」ではなくて、「だれがこれを私の生涯に与えたのか？」ということです。

皆さんは頭でよく理解しています。神が計画しないことが私たちの人生に起こることがありますか？神の知らないこと、神の許可しないことが私たちの人生に起こることがありますか？私たちが通るありとあらゆる喜びも痛みもどんな状況も、神がそれを計画し、それを良しとして、それが起こることを許可して、私たちの上にそれが起こっているのです。なぜか良く分からないことがたくさんあります。

「なぜ？」に関して私は多くの疑問を持ちます。皆さんと同じように。でも、「なぜか？」は問題ではないのです。「だれなのか？」を知っておれば…。私たちが神の前に正しく応答していくためには、困難の中にあつて「だれがそれを与えてくださっているのか」を知らないといけないのです。神が主権者であるということは、私たちの人生が私たちの願っているような繁栄の道を辿っているときだけではないのです。私たちが貧しく苦しい道を歩んでいるときも、神は同じく主権者なのです。神が私たちを愛しておられるということが分かるのは、私たちの人生に私たちが考えている良いことが起こっているときだけではないのです。私たちがこれは良くないと思っていることが起こっているときも、神は私たちを愛していることに変わりはないのです。私たちが苦しんでどうしようもないと考えるときも、私たちの心が喜び躍っているときも、神の知恵や主権や愛は一切変わっていないのです。

もし、そのことを正しく理解しているなら信頼できませんか？忍耐がもてませんか？著者は言うのです。「私たちが神の前に正しく応答していくためには、正しい質問をしなければいけない。ありとあらゆることの背後にだれがおられるのかを見ておかなければいけない。」と。スポルジョンはこんなことを言いました。「私は神の主権という枕に頭をおいて夜休むことができる。その主権は私に安らかな眠りと心からの安心を与える。なぜなら、私の抱えるどんな困難も問題も、神が決定されたことであり、神の完全な権威のもとで支配されていることを私は知るからだ。」と。夜、寝付けないことがありますか？私も時々あります。くだらないことから非常に重要な問題に至るまで、自分の心が思い悩んで、夜休むことができなくなることがあります。どれだけ体が疲れていてもなかなか寝つけません。やっと休んだと思ったら、ふとしたことで目が覚めて、もう一度寝ようと思っても、そのことが頭の中を駆け巡って休むことができないのです。スポルジョンは言うのです。「そのときに私は神の主権という枕に頭をおく。神がすべてを支配しておられる、神の許可のもとでありとあらゆることが起こっている、それが分かれば安心して休むことができる。」と。

私たちがそのようなにならないといけません。私たちは自分のたましいに「なぜ」という質問の回答を得ることによって納得を得たいと願っているのです。でも、そうする代わりに私たちは「だれがすべてのことを為してくださっているのか？」ということを知ることによって、たましいを満足させなければいけないのです。そのことを学ばないといけないのです。それが私たちが正しい応答をするために必要な最初のステップです。

## 2. 神からの助けをしっかりと知る 76-77節

76-77節「どうか、あなたのしもべへのみことばのとおり、あなたの恵みが私の慰めとなりますように。:77 私にあなたのあわれみを臨ませ、私を生かしてください。あなただけの喜びだからです。」私たちがいろいろな苦しみを経験していく中で、神は単に私たちの必要を知っておられるだけでなく、私たちの限界を知っておられるだけでなく、私たちの最善が何かを知っておられるだけではなく、私たちの力が限界に到達したときに、それをさらに乗り越えて困難に立ち向かい、忍耐をもって勝利の道を進んでいくことができるように助けを与えてくださいます。彼が言っているのはそのことです。たとえ、どれだけ高い山に上らなければいけないとしても、どれだけ深い谷を歩いていかなければいけないとしても、神はそれを乗り越えて行くことができる恵みとあわれみを備え続けてくださるのです。それをしっかりと知り、それを得て生きていくことが、私たちが苦しみの中で正しく応答していくために必要な

第二番目のステップなのです。

この詩文節、73節から80節にある他の祈りの願いと違って、76節にだけ「どうか」ということばがつけられています。この祈りを非常に強調しているのです。なぜなら、彼はよく分かっていたのです。「これがなかったら私は願っていることを何一つできません。神さま、あなたの恵みがあなたのあわれみが私に与えられることがなければ、私はどうあがいても先に進んでいくことができません。」と言います。でも、彼はその恵みが確かにあることを、そのあわれみが確かにあることを知っていました。これは単なる希望ではないのです。願望ではないのです。「起こるかどうかわからないけれど、でも、神さま、何とかしてください、お願いします。」と言って手を合わせるのではないのです。彼ははっきりとした確信のもとにこれを祈っているのです。なぜなら「どうか、あなたのしもべへのみことばのとおり、」と言っているからです。この「みことば」と訳されていることばは「約束」と訳することができます。「神さま、あなたは私に約束してくださいました。あなたは私に恵みを与えてくださり、あなたは私にあわれみを備えてくださる方です。それが与えられることが約束されているから、私は今あなたに信頼して、今この苦しみのときに困難なときに、あなたに心から願い求めます。今、どうぞあなたの恵みとあわれみが私にあるように。」と。彼は言います、「やって来るように」と。76、77節に違う単語が使われていますが、「慰めとなりますように」「あわれみを臨ませ、」とありますが、どちらも、意味合いとしては、すぐ横にあたり、また、それがやって来ることを言い表わします。彼は神からの助けを何よりも求めているのです。

77節で「あわれみ」と訳されていることばは、親が子どもにもつような愛情を表わしています。詩篇103：13には「父がその子をあわれむように、主は、ご自分を恐れる者をあわれまれる。」とあります。彼はそのような愛情が必要だったのです。苦しんでどうしようもない子どもに対して何とかしてあげようと横にいて、熱を出しているときには氷枕を変えてあげたり汗を拭いてあげたりして、何とかして子どもの痛みを和らげてあげようとする、親がもつそのような愛情を「神さま、どうぞ私に与えてください。」と祈るのです。それをもって私を生かしてください。活力を得て、あなたが望むような者となって行くことができるようにしてくださいと。

そして、彼は77節の後半で言います。「あなたのみおしえが私の喜びだからです。」と。なぜ、これがあることが分かるのでしょうか？なぜ、そのような恵みやあわれみが確かに自分のものであることを知ることができるのか？ここに書かれている通りです。神の教えが、神の語っておられることが彼の喜びだからです。この「喜び」ということばは、日本語では分かりませんが、複数形が使われています。多くの注解者は複数形が使われているその理由は、この「喜び」は完全で十分なものであることを強調しているか、もしくは、他の何よりもこのことが一番の喜びであるということを書き表わそうとしているかのどちらかであると。どちらにしても、言わんとしていることはあまり変わりありません。なぜ、このように恵みやあわれみが彼を包み、彼を助け、彼が必要な力を得て困難を乗り越えて行くことができるようになるのかと言うと、彼が何よりも神のみおしえを喜びとして生きているからです。苦しみの中であって、私たちはこの76、77節で、私たちは彼の希望が湧き上がって来るのを見ることが出来ます。彼の生涯は神の恵みというすばらしい場所にしっかりと礎を下ろしているのです。神は決して私たちを見捨てる方ではなく、神のあわれみは私たちに尽きないのです。神は私たちに溢れんばかりの恵みを与えてくださる方です。

私たちは神が恵みとあわれみを与えてくださるときに、みことばを通して、すばらしい安らぎと希望を得ることがあります。聖書のことばでどれだけ励まされたか、そこにどれだけ慰めを得ることができたか、皆さんもきっとあるでしょう。なぜなら、私たちはここに書かれていることが真実であることを知っているからです。なぜなら、私たちはここに書かれている神はまさに私たちの神であることを知っているからです。哀歌3：31-32にこのように記されています。「主は、いつまでも見放してはおられない。：32 たとい悩みを受けても、主は、その豊かな恵みによって、あわれんでくださる。」と。この方は約束を破らない方であり、私たちの必要を満たしてくださいる方なのです。

ちょうどヨセフが多くの人々の手によって苦しめられたように、兄弟たちに裏切られ、不正を働かれ、忘れ去られていったそのような苦しみを通って行っても、神の前に忠実であったように。ダニエルや三人の友人たちが敵の企みに嵌められていくそのような中であっても、神の前に希望と喜びを失わなかったのと同じように、私たちはどんな困難の中であっても、神のうちに希望と喜びを見出して行くことができるのです。なぜですか？それは私たちが神の子どもだからです。神は私たちの巖だからです。この方のそばに私たちが安らぐならば、そこには必ず助けが備えられていることを私たちは知っているからです。

### 3. 自分の責任を全うする 78-79節

#### 1) 神が私を苦しめる者に正しいさばきをされる 78節

「正しい応答」は私たちが困難の中にあっても責任を全うすることにあるのです。78節には「どうか高ぶる者どもが、恥を見ますように。彼らは偽りごとをもって私を曲げたからです。しかし私は、あなたの戒めに思いを潜めます。」とあります。確かに、敵がいたのです。彼らは悪いことを企み、いろいろな企てをし、彼が言っていることを曲げ、言っていないことを言っていると言って彼を貶めようとしたのです。私たちがそのような状況にあって一生懸命に願うことは何ですか？何とか仕返しの機会がないか、何とかして復讐したいということです。でも、彼がよく分かっていたのは、私たちがローマ人への手紙12章で学んだように、復讐はだれのものでしたか？復讐は神のものです。12:19「愛する人たち。自分で復讐してはいけません。神の怒りに任せなさい。それは、こう書いてあるからです。「復讐はわたしのすることである。わたしが報いをする、と主は言われる。」、あなたは正しくさばく方であることを知っているから、私はあなたのさばきに彼らを委ねますと言うのです。

自分で彼らに対する復讐を一生懸命考え、その機会を待ち望むのではなくて、その代わりに、著者が熱心にしたことは「あなたの戒めに思いを潜めます。」でした。皆さんできますか？いや、このようにして来ましたか？いろいろな人間的な問題があります。様々な人たちが私たちに悪をすることがあります。でも、私たちはそのときに何とかして彼らに仕返ししようと考えてのではなくて、神が報いを与えてくださるから、その神に信頼して、自分は主の前に正しいことを行なっていこうと心から願い、それを実践していこうとするのです。なぜなら、それが私たちの責任だからです。

#### 2) 私は人々の模範となる 79節

そして、79節「あなたを恐れる人々と、あなたのさとしを知る者たちが、私のところに帰りますように。」と、基本的には74節で見たことと同じことが記されています。神を信頼する人たちが、私がどのように生きているのかをしっかりと見て、私とともに歩いていくことができるようにと言っているのです。彼が74節で祈ったことは「人々の模範となること」でした。人々の前で私たちが正しい歩みをし、正しい応答をすることによって、神が称えられ、人々が成長することを彼は何よりも願い、それが自分の務めであることを良く理解していたのです。詩篇119:1と5-6節を見ましょう。「:1 幸いなことよ。全き道を行く人々、主のみおしえによって歩む人々。」「:5 どうか、私の道を堅くしてください。あなたのおきてを守るように。:6 そうすれば、私はあなたのすべての仰せを見ても恥じることがないでしょう。」

私は考えました。どれだけそのようにしているかなど。皆さん、考えさせられませんか？苦しみのあるときに、困難のあるときに、どれだけ人の益となるように生きようとしているかと。神の前に正しく困難を乗り越えていこうとするなら、私たちは自分の責任を全うすることを考えなければいけないのです。

#### 4. 苦しみの真の目的に焦点を当てて、それに沿って生きる 80節

80節「どうか、私の心が、あなたのおきてのうちに全きものとなりますように。それは、私が恥を見ることのないためです。」、皆さん、神はあらゆることを働かせて私たちの益としてくださるのです。その益とは何ですか？ローマ8:29にこのように続きます。「なぜなら、神は、あらかじめ知っておられる人々を、御子のかたちと同じ姿にあらかじめ定められたからです。それは、御子が多くの兄弟たちの中で長子となられるためです。」、神は救いをもたらすことを選択されて救いに入れた人たちが、御子と同じ姿になることができるために、ありとあらゆることを働かせて私たちの益としてくださるのです。究極的な目的は何ですか？私たちが御子に似た者となることです。パウロは、ピリピ人への手紙3章で、自分の目標としてこのように言っています。3:10-11「私は、キリストとその復活の力を知り、またキリストの苦しみにあずかることも知って、キリストの死と同じ状態になり、:11 どうかして、死者の中からの復活に達したいのです。」、彼が目標にしていたことは「死者の中からの復活に達したい」です。別の言い方をすれば、それは「キリストに似た者となる」ということです。

そして、そのために彼は何が必要なのかをよく分かっていたのです。彼はキリストを知りたいと言いました。それが具体的に二つのかたちで表わされています。「キリストとその復活の力を知り」と「キリストの苦しみにあずかること」です。私たちは「キリストの復活の力」を知りたいと思います。すごい偉大な力です。それが私に与えられて、それが私のものとなればどんなにすばらしいかと思いますが、私たちは「キリストの苦しみにあずかること」は余り望みません。でも、片方だけでもう一方はいらぬということはありません。なぜなら、二つがセットでやって来るからです。前回も話したかもしれませんが。皆さん、どのようにして「忍耐」を学びますか？もし、私たちが苦しみを通らなかつたらどうして忍耐を学びますか？どのようにしてキリストが愛したような愛をもって人を愛することを学びますか？もし、私たちの前に愛し難い人が現われたら…。敵をも愛しなさいと言われたその命令を、神が求



めるように歩いていこうと思うならば、私たちは敵の苦しみにさらされる必要があると思いませんか？私たちは平安と希望をもって生きていきたいと思えます。喜びをもって生きていきたいと思えます。人生が上手くいっているときに平安と希望と喜びをもって生きていくことは簡単だと思いませんか？でも、本当にそれを持っているかどうかのテストはいつ来ますか？私たちの人生が自分たちの望むものとは違うものになっていくときです。そのときに初めて私たちは、神が求めている平安や喜びや希望をもって生きているかどうか試されるのです。

皆さん、もし、キリストに似た者になりたいと思うなら、私たちは喜んで苦難を受け入れるべきだと思いませんか？著者が願ったことは「私の心が、あなたのおきてのうちに全きものとなりますように。」でした。傷のない者であることでした。どこから見ても恥を受けることがない者でした。彼が言っているのは、主が受け入れてくださる完全な者になりたいということです。それが究極的な目的であることを知っているから、どうか、この苦難の中で、この苦しみの中で「主よ、私が正しく生きていくことができるように、どうぞ、あなたが助けてください。」とそのように祈っているのです。

もし、私たちが主の前に正しく応答していきたいと願うならば、私たちはこのようなことをしていかないとはいけません。私たちは必ず苦しみを通ります。もし、皆さんが苦しみを通らないなら、皆さんはきっと神に愛されていません。なぜなら、神は皆さんをキリストに似た者にしようとしているからです。皆さんがキリストに似た者になろうとするなら、皆さんが主の前に全き者として立つことができるようになるためには、皆さんには苦しみが必要なのです。困難が必要なのです。納得できないことがたくさん起こります。「意味が分からない、訳が分からない、どうしてこんな思いをしなければいけないのですか？」と思うことがたくさんやって来ます。でも、神は皆さんに意地悪をしたくて、皆さんが苦しむ姿を見て喜ぶから、そんなことをするものではありません。皆さんがキリストに似た者として、主の前に全き者として立つことを神は心から求めておられるから、神はそれらを私たちに備えられるのです。

皆さんは「悟りを与えてください」と祈りますか？皆さんは「人々の模範になるように」と目指していますか？皆さんは、正しい応答をしていますか？間違いなく、簡単なことではありません。でも、皆さんの心をどうぞ吟味してください。愛する皆さん、もし、今皆さんが実際にそのような苦しみ季節の中に置かれているとするなら、皆さんの進んでいる人生の航海が大きな嵐にもまれているそのような状況であるとするならば、どうぞ思い出してください。皆さんは神に用いられる偉大な模範となる機会が今与えられているのです。キリストに似た者となるすばらしい機会が備えられているのです。

どうぞ、神を信頼してください。どうぞ、神を見上げてください。そして、もし皆さんが今、そのような時期におかれていないとするならば、皆さんの進んでいくその道が滑らかで安らかなものとするならば、どうぞ、今、このときにそのことをよく覚えてください。なぜならば、必ず、皆さんの人生には苦しみが出て来るからです。それは大きなものであるかもしれない、小さなものであるかもしれませんが。それは分からないけれども、たとえ、それが何であったとしても、神は皆さんが全き者となることを願って、人々の模範として生きることを願って、それらを備えてくださっています。

千年後、二千年後、皆さんの人生を本にされたら、それを読む人たちは皆さんを見て喜ぶと思えますか？私はそんな者になりたいなと思えます。私の人生なんてだれも読まないかもしれませんが、でも、もしその記録が残されることがあるとするならば、次の世代の人たち、その次の世代の人たちが、百年後、千年後、この世界が続く限り、神を恐れる者たちが、自分たちの生涯を見て、私もこのように生きるべきだという模範を示しながら生きることができればと心から願います。

皆さんもそう思いませんか？だから、そのように生きていかなければいけないのです。